新聞各紙の見出しの一部

朝　日：響く聖歌思い包む
毎　日：江戸初期殉教者188人
　　日本初の「列福式」
読　売：誉れの「福者」３万人たたえ
西日本：受難の地で宗教超え祈り
長　崎：受難の歴史　思いはせ
　　時を超え　福者に敬愛

発行所　カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人　中　田　輝　次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869　FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所　株式会社　藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146　FAX 095(821)2148

よきおとずれ
CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

日本の教会史上初

日本カトリック界に“恵みの風”
188殉教者の列福式に３万人集う
ビッグＮスタジアム（長崎県営野球場）

ペトロ岐部と187殉教者の列福式が、11月24日、ビッグＮスタジアム（長崎県営野球場）で盛大に行われた。列福式ミサは、バチカン教皇庁が主催し、ローマ教皇代理サライバ枢機卿（**右上円内**）が臨席した。司教・枢機卿35人、司祭約600人が共同司式した。

雨天となったが、式典が進むと回復し、３万人の参加者の歌と祈りが天に届いた。

188人は、17世紀前半に日本の各地で殉教したキリスト者で、５人の日本人司祭・修道士と183人の日本人信徒（80歳の高齢者から1歳の子供含む）である。前教皇ヨハネ・パウロ2世訪日を機に列福運動が開始され、教皇ベネディクト16世の承認を経て、今日の喜びの日を迎えた。

ミサの前には殉教者を紹介する映像が映され、会場を埋め尽くした参列者の心の準備になった。

開祭の儀の後、教皇代理が教皇書簡を朗読、ペトロ岐部と187人の殉教者を福者の列に加えると高らかに宣言し、三牧樺ず子氏作の福者の肖像画が除幕された。会場内のすべての人が新福者を喜びたたえた。固有の記念日は7月1日となる。

白柳誠一枢機卿（**左上円内**）は説教の中で、殉教者が今こそ神の恵みに信頼して信仰に生きることを恐れるな、と叫んでいると会衆に語り掛けた。

今日の列福式は、日本教会全体の努力が報われた瞬間である。特に列福式実行委員会の髙見三明長崎大司教とすべての委員、またカトリック中央協議会のメンバーの惜しみない努力に感謝したい。

188人の福者をいただいた日本の教会は、この世にあって譲れないものを託されて、新たな宣教への一歩を踏み出す。

福者
司祭4、修道士1、幅広い層の信徒183人

このたび長崎で史上初めて、ペトロ岐部と187殉教者の列福式が行われました。これは極めて意義深いことであり、この機会に日本に新しい神の息吹が吹き、日本の福音化が進展することを切に望み、神の恵みを切に祈ります。

日本に新しい神の息吹
岡田武夫大司教（日本カトリック司教協議会会長）

日本は殉教者の国であり、日本26聖人殉教者をはじめとする多くの殉教者の聖人・福者が与えられました。しかし、今回は日本の教会の主導による、日本の教会のための列福運動による実りです。しかも188人全員が日本人で、その中の183人が信徒です。ここに今回の列福の特色があります。

私たちは400年前の188人の殉教者の生き方から、今日の教会として学ぶべき点が多々あると思います。

現代は価値の多元化と相対主義の時代といってよいのではないでしょうか。人々は信ずべき明確な軸足を失っています。課題は、いかに他者を否定せず、排撃せずに自分の信仰と信念を貫くか、ということです。この点、殉教者の信仰告白は明瞭明確であります。現代は人間の絆が弱く、そして薄い時代です。課題は、いかに互いの自由と意思を尊重しながら、他者を自分より優れたものと、かけがえのないものと考えて大切にかかわっていくのか、ということです。殉教者は非暴力を貫きました。

現代は個の存在が薄く、自分の存在の意味に疑問を持つ人が少なくありません。現代の「荒れ野」において、人生の孤独と意味の喪失に苦しむ人々に癒やしと励まし、光と力となるネットワークを築くことこそ、教会の重要な課題であると思います。

400年前、日本には司祭不在の共同体が立派に存在していました。現代、これらの課題を乗り切るために、188殉教者の生き方は大きな力、支え、導きとなると信じます。

殉教者の生き方に学ぶ
髙見三明大司教（列福式実行委員会委員長）

何千何万という無名の殉教者たちの代表であると考えたいと思います。一方、日本の為政者たちがキリスト教を禁じた理由の中には、キリスト者自身に猛省をせまる点がいくつかあったと思われます。たとえば、当時、宣教方法に関する見解の違いなどによる宣教師たち同志の争い、神社仏閣を破壊したり焼き払ったりするという暴力的な行為などが、為政者や他の宗教の人々にキリスト教に対する偏見や誤解を生じさせる要因ともなりました。

現代を生きる私たちキリスト者は、信教の自由が完全に保証されすべての人の尊厳と人権が大切にされる平和な人類社会の実現を目指すだけでなく、キリストの福音を深く理解し、真に証しする生き方をもっと徹底して追及していく必要があります。殉教者の生き方に学ぶことが、キリストの福音の神髄を悟り生きることへとつながるよう、さらに祈り努めてまいりましょう。

教会にもらった希望
溝部脩司教（列聖列福特別委員会委員長）

列福式は慶事です。神の恵みです。しかし、列福される殉教者たちは、公に祝われることのない公式に全教会に模範としてある人々を認定する式が「列福式」です。それを通して教会に生きる人々に信仰を生きる喜びを与え、さらにそれを生きることを通して、現代に生きているすべての人に希望をもたらすことができます。

188人の日本殉教者は今日の私たちに、どのように現代社会を生きるかを問い掛けています。このように考えると、「列福式」を単なる行事にしてはいけません。また、その行事にしても、単に英雄をたたえる儀式にしてもいけません。

400年前を生きた人々がその時代をどのように生きたかを検証し、さらに現代に生きる私たちがどのように生きるのかを、私たち自身が問うてみる時とすることが肝要です。

私たち一人ひとりに問い掛けると同時に、教会全体に問い掛けています。

これを機会に今の教会のあり方をも検証する良い契機とすることをお勧めします。

殉教者とともに
結城了悟神父（日本26聖人記念館前館長）

教皇ヨハネ・パウロ2世が「殉教者の巡礼者」として1981年2月に来日された。教皇さまは来崎の主な理由を述べられた。

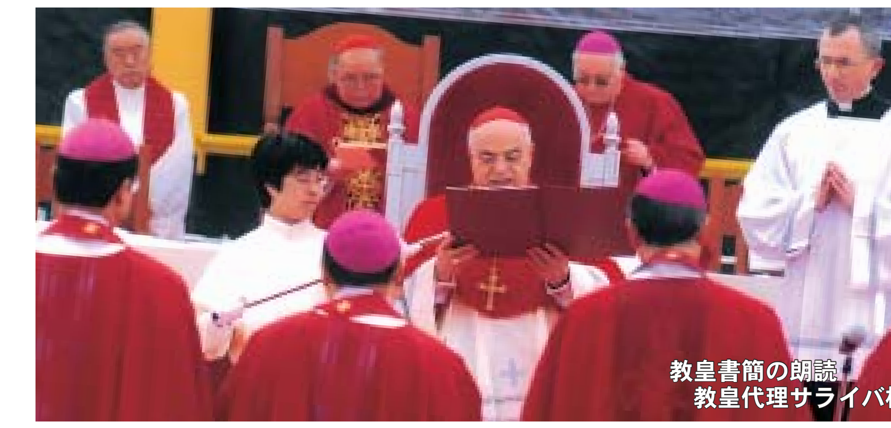
「この殉教者の記念碑の前で祈りと反省の時を過ごしながら、私は彼らが私と全教会に語りかけることば、数百年を経て、今なお生きている彼らのメッセージを聞きたいと思っています」

教皇さまのご訪問と関連して、里脇枢機卿は日本人殉教者の列福調査を始めた。それは188人の殉教者のことで、彼らの記録が集められローマへ送られた。97年にはそのときまでの活躍が認められ、2千枚以上の資料をバチカンの委員会で、研究結果としてまとめられた。188人の殉教者のうち長崎教区で殉教した者が多く、優れた模範を残した。

このキリストの証人たちの列福が長崎教区、また日本全国の教会にとって大きな恵みとなり、今こそ、私たちは出来るだけ早く列福が行われるように聖霊の導きを祈るという務めが委ねられている。

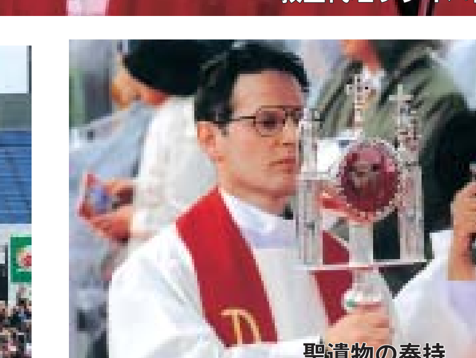
（05年1月号「よきおとずれ」一部を抜粋し、掲載。4面に訃報。写真は中町教会で行われた2月の26聖人殉教ミサで写す）

答唱詩編を歌う松本裕子さん


教皇書簡の朗読
教皇代理サライバ枢機卿

寒さの中、188羽の伝書鳩が飛び立つ

オーロラビジョンで映し出される教皇代理


聖遺物の奉持
レンゾ・デ・ルカ師

ご聖体を授ける
髙見大司教

会場に響かせた聖歌隊員
指揮・平本義和師

若者のリレーで全国を巡ってきた大ロウソクの入場

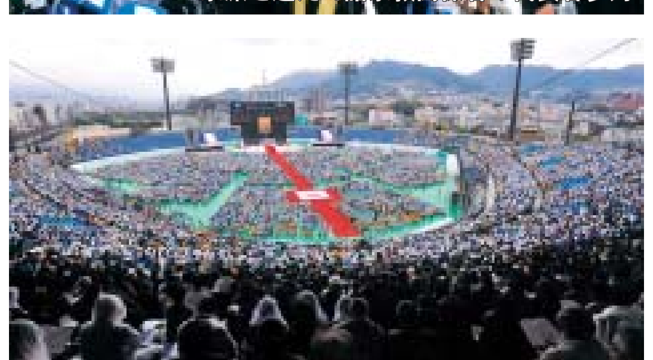
殉教 神への信仰・希望・愛に生き、信仰への迫害にめげずに無抵抗、非暴力のうちにいのちをささげることを殉教と呼びます。教会によって公に認定される殉教者とは、迫害する側が、信仰のみの理由でその人のいのちを奪うこと、また迫害される側も、信仰のみの理由で暴力的な抵抗をせず、いのちを奪われる結果になった人です。

		福者ペトロ岐部と187殉教者		殉教年月日	殉教地
八代の殉教者	11人	ヨハネ南五郎左衛門		1603. 12. 8	熊　本
		シモン竹田五兵衛	他４人	1603. 12. 9	八　代
		ヨアキム渡辺次郎左衛門		1606. 8. 16	八　代
		ミカエル三石彦右衛門	他３人	1609. 2. 4	八　代
萩・山口の殉教者	２人	メルキオール熊谷豊前守元直		1605. 8. 16	萩
		ダミアン		1605. 8. 19	山　口
薩摩の殉教者	１人	レオ税所七右衛門		1608. 11. 17	川内、平佐
生月の殉教者	３人	ガスパル西玄可	他２人	1609. 11. 14	生　月
有馬の殉教者	８人	アドリアノ高橋主水	他７人	1613. 10. 7	有　馬
天草の殉教者	１人	アダム荒川		1614. 6. 5	富　岡
京都の殉教者	52人	ヨハネ橋本太兵衛	他51人	1619. 10. 6	京　都
小倉・大分・熊本の殉教者	18人	ディエゴ加賀山隼人		1619. 10. 15	小　倉
		バルタザル加賀山半左衛門	他１人	1619. 10. 15	日出、豊後
		小笠原玄也与三郎	他14人	1636. 1. 30	熊　本
江戸の殉教者	１人	ヨハネ原主水胤信		1623. 12. 4	江　戸
広島の殉教者	３人	フランシスコ遠山甚太郎		1624. 2. 16	広　島
		マチアス庄原市左衛門		1624. 2. 17	広　島
		ヨアキム九郎右衛門		1624. 3. 8	広　島
島原・雲仙の殉教者	29人	バルタザル内堀	他２人	1627. 2. 21	島　原
		パウロ内堀作右衛門	他15人	1627. 2. 28	雲　仙
		ヨアキム峰助太夫	他９人	1627. 5. 17	雲　仙
米沢の殉教者	53人	ルイス甘糟右衛門	他52人	1629. 1. 12	米　沢
長崎西坂の殉教者	３人	ミカエル薬屋		1633. 7. 28	西　坂
		ニコラオ福永ケイアン		1633. 7. 31	西　坂
		ジュリアン中浦（司祭）		1633. 10. 21	西　坂
大坂の殉教者	１人	ディオゴ結城了雪（司祭）		1636. 2. 25	大　坂
長崎西坂の殉教者	１人	トマス金鍔次兵衛（司祭）		1637. 11. 6	西　坂
江戸の殉教者	１人	ペトロ岐部かすい（司祭）		1639. 7	江　戸

入場する司教団

宗派を超えて諸宗教関係者の代表者参列

会場の一角を埋めた約600人の司祭団


会場を埋めた３万人の信徒

来賓席（左から）
金子長崎県知事
田上長崎市長（３人目）
白濵平戸市長（５人目）

防寒着、レインコートが目立った信徒席

殉教者の道は永遠の希望への道

宣教と生きざま

前田　万葉
中央協議会事務局長
長崎教区司祭

　殉教者が残した課題とは、「命をかけて『いのち』を生きる」（列福式標語）ことだと思う。日本の教会は昨年、「第1回福音宣教推進全国会議」（NICE－1）から20周年を迎えた。そして今年は、6月から1年間の「パウロ年」と11月の「列福式」。さらに来年は「宣教再開150周年」だ。摂理的な、「福音宣教見直し」のチャンスだと思う。

　NICEの振り返りでは、「ともに喜びをもって生きよう」の精神と「分かち合い」が浸透し、「社会とともに歩む教会」の姿も顕著に現れていることを確認した。しかし、本来の宣教活動がおろそかにされているという指摘もあった。

　この課題を解く鍵が、冒頭に記した標語にあると思う。イエス・キリストはもちろん、パウロをはじめ、188殉教者たちのいちずな生きざまは、まさに、「命がけで『永遠のいのち』を生きよう、あるいは生きさせよう」という、「証し」だからだ。

　現代の私たちに足りないものがここにある。司教も司祭も修道者も、そして信徒も、それぞれの立場から反省し、宣教の原点に戻らなければならない。

十字切る三万人の福者祭

滅びない愛と命

小崎　登明
聖母の騎士修道院
修道士

　幼児のころ、母親の膝の上で初めて聞いた殉教者の話と1枚の聖絵。怖い、痛いのショックをいまだに覚えている。

　人生を振り返って、肉体の痛みや精神のつらさは多々あったが、到底、殉教者には及ばない。

　殉教者の無声映画の弁士を何十年も務めたが、声は代弁しても、魂の叫びは表現できない。

　神は私たちの心に、神の愛を燃やすため、御子の受難のしるしを殉教者の体に示された。

　神の愛を真に体感するか。永遠の生命に希望をおくか。命をかけて信仰を守るか。苦しみを神の喜びに変えているか。殉教者は問うている。

　殉教者はキリストの生き方に近づく人であった。恨まず、憎まず、隣人愛の実践者であった。

　この世の愛と命には限りがある。滅びない愛、滅びない命を望みながら、原爆死した母が教えた殉教者の心で御子の死の秘儀を生き、その復活にあずかるよう願っている。

　齢80まで生かされて、列福式で仰いだ福者188人殉教者の聖絵。怖い、痛いは遠のいて、神の喜びに満たされた。

　イエスのように生きたい、倣いたい。強烈な望みが湧いた年である。

感謝ミサ

中町教会

　翌25日10時から中町教会では列福式を終えての感謝ミサがささげられた。

　髙見大司教、幸田和生東京補佐司教、宮原良治福岡司教、郡山健次郎鹿児島司教と23人の司祭団による共同司式で、聖堂を埋めた参列者は心あわせてともに祈った。

次の世代へと受け継いで

今村美由紀
平戸市
田平小教区信徒

　神さまの名において命をささげるという、その壮絶で美しく深い形で信仰を守り抜いた日本の殉教者たちは、このたび、福者としてたたえられました。それは私たちにとって、とても誇らしく、また見習うべき形であり、そして、命すら惜しまず最後まで信じたその信仰を私たちは今一度見詰め直し、また次の世代へと受け継いでいかなければと思います。

　しかし、青年という立場から見て、現代、若者の教会離れが目立つ気がいたします。かつては子供たちも幼いながらに神さまの教えを正しいと信じ、また、慎ましく祈り教えに従って生活をする大人たちを敬いながら生きていたのだと思います。祈ることはとても大切であり、その行いは心のよりどころです。祈りや教えを体現することで、隣人を愛し、また愛されること、そういう姿が相手を引き付ける業ではないでしょうか？

　殉教者たちが命すら惜しまず守った信仰を後世まで私たちが守り育て、よりよく広められ、また大切に受け継がれていくよう、世の光となって生きていきたい、私はそう努めたいと願っています。

教皇代理 ジョゼ・サライバ枢機卿 メッセージ

略歴
教皇代理
ジョゼ・サライバ・マルティンス枢機卿

1932年　ポルトガル生まれ、76歳
57年　司祭叙階
88年　教皇庁教育省次官、名義大司教
7・2　司教に叙階
1998年　教皇庁列聖省長官任命
2001年　枢機卿親任
08年　列聖省長官を退任

注・一定の教区の配慮をゆだねられている司教を教区司教、その他の司教を名義司教と称する。

　ヨハネ・パウロ2世教皇聖下は1981年2月26日、ここ長崎において、次のように語りました。「きょう、私はこの長崎の殉教者の丘、多くのキリスト信者が生命をいけにえとしてささげ、キリストに対する忠実の証しをたてたこの丘を訪れる、数多くの巡礼者の一人になりたいと望んでいます。」

　本日の列福式をもって、教皇聖下の預言者的なこのことばは、ほぼ実現を見たということができます。4世紀を経て、188人もの偉大な信者に光が当てられました。その人々はすべて、キリストへの信仰を、いのちをかけて証しする賜物を受けたのです。「命の書」（フィリピ4章3節）にひそかに記されていたその名前は、今日、福者の列に加えられました。

　年齢と環境が異なり、場所と時間が違っても、多くの殉教者が示している忠実さは、いのちをかけて信仰を証しすることが、人間が持つ自由の最高の表現、最大の愛の行いであり、それは教会の教えが生きていることのしるしです。

　ベネディクト16世教皇聖下は「キリスト教における、神と人々への、迫害する者たちも含めた人々に向かう愛以外の何物でもないという、この殉教者の大きな特徴を、常に明らかにする必要がある」と語ります。（2007年12月26日　お告げの祈り）

　未来に向かって不安を感じている私たちの世界において、「その衣を小羊の血で洗って白くした」（ヨハネの黙示　7章14節）人々の模範は、信頼に足る出発点であり、信仰の公の証しです。それは私たちが理想としていることを証言し、神の子となった人々の間の、親しい交わりを深めるものだからです。

　私たちの本日の集いは、信仰と教会の交わりを味わう喜ばしい体験のひとときです。それは、たくさんの男性と女性の信仰、若者と子供の、独身者と家族の、その多くが信徒であった、キリストへの信仰を血を流してでも言い表そうとした人々の信仰によって築かれた教会です。

　殉教者の一団によってこのように養われ、教会の祭壇で栄誉をたたえられた、日本における神の民の優れた証言は、それゆえ、長い期間にわたって働き続ける原動力であり、日本の教会共同体のこれからと、日本全体の未来のための希望の泉となるものです。

　ペトロ岐部と187人の殉教者の列福の式典に当たり、殉教者の女王である聖母マリアが、その取り次ぎに信頼し、愛をもって、いつの日にも、福音のために生涯をささげ、死んで復活したキリストを証しする恵みを願う人々を、すべて守ってくださいますように。（一部を抜粋）

　長崎にて
2008年11月24日

笑顔で信徒に応える教皇代理

信徒の時代がそこに

山口　英明
佐世保市
俵町小教区信徒

　188殉教者の列福式。殉教者の内訳を調べてみると、私たち日本のキリスト者が進むべき道が示されているように思える。

　それは、司祭・修道者は5人だけであり、183人は老若男女の信徒たちなのだ。その身分も大名の重臣であった武士から農工商業者、家庭を支えた女性、幼児、障害などのために差別された人々にいたるまで多岐にわたっている。

　殉教者は神への信頼と希望を強くもち、数少ない司祭・修道者にもかかわらず、将来に対する心配もなく、前へ前へと進んでいきました。

　将来、日本の教会の内訳もこの殉教の時代に近い「信徒の時代」がもうそこまで来ているようだ。いや、もう来ているのかも知れない。

　殉教者が残した課題にどのように応えていくべきなのか。その課題とは、何なのだろう。頭を抱えてしまう。

　この平和な日本でどれくらい続くかわからない「信徒の時代」を生きていくためには、司祭、修道者の方々と協力し、キリストの教えを語り継いでいくことではないだろうか。子へ孫へ、そして周りの人々へと。

「永き後生捨てがたく」

片岡瑠美子
長崎純心大学教授
純心聖母会会員

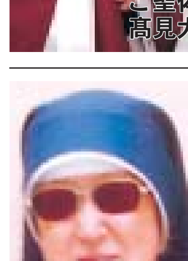
　1636年の熊本における殉教は、小笠原玄也と妻みや、9人の子供たちと4人の奉公人、合わせて15人が同じ日に殉教したというだけでなく、小倉の殉教者加賀山隼人はみやの父なので、三代にわたる殉教となり、同時に福者と宣言されるという史上まれなことである。

　高い身分と禄を捨て、極貧の生活の後、殉教までの1カ月を過ごした座敷牢で彼らが認めた16通の遺書は、摂理的に残っていた。遺書からは、彼らの篤く揺るぎない信仰と強い家族の絆が伝わってくる。

　みやは、「永き後生捨てがたく申しきり、十一月四日に牢舎仰せつけ候事」と遺書に記した。

　捨てることのできないものが「永き後生」、永遠のいのちなのだと教える母の言葉を素直に受け入れる子供たち、殉教の時を待ちながら祈り続ける家族の姿が浮かんでくる。それは、昔、浦上では普通の情景であった。親から子に受け継ぐ信仰、それこそ、先祖たちの遺産ではなかったか。忙しい現代であっても、家族で祈りなさい、そこに永遠の希望の道があると、小笠原玄也一家が励ましているように思う。

殉教者が残した課題



中山　和子
聖母の騎士
修道女会会員

　このたび列福された188人の殉教者の1人福者ニコラオ福永が、穴吊りの刑で苦しめられた時役人から「このような人生を生きてお前は悔しくないのか」と聞かれた。

　聖なる死の直前である。この時に答えたニコラオの次の言葉が、私には殉教者が私たちに残した課題に思えてならない。

「1つあります。将軍さまはじめ日本のすべての人をキリシタンにできなかったことです。」

　今の私たちに、このような霊魂の救いに対する熱意と愛があるだろうか。厳しい迫害時代にあってもキリシタンの数は、1614年頃は30万人に近く、大殉教が行われた頃は50万人近くいたとも言われている。

　今の信仰の自由な時代において信者数は44万7千人で、380年前とあまり変わらない。

『日本の信者の皆さん！私たちの列福が豊かな実を結ぶよう、日本人の回心・回宗のために、聖職者も信徒も1つになって力を合わせて祈り、働いてください』

　188人の福者の真摯な声に耳を傾けて実行に励み、至福の生命に生きている殉教者が残した課題に応えたい。

福者次兵衛神父の感謝ミサ（外海）

　聖アウグスチノ修道会は、列福式明けの11月25日、長崎市外海の扇山公民館広場で関係司祭が集い次兵衛神父の列福を感謝するミサをささげた。

　参列者は東京、名古屋、福岡、長崎（城山）の修道会所属の4教会の他、京都教区の約100人を含む300余人。

　修道会総長ロバート・プレヴォスト師、今田日本分管区長ら約60人が次兵衛神父の隠れ家・洞くつまで登り（約90分）祈りをささげた。

　案内は洞くつを発見した山崎政行さん（79歳、下黒崎）が務めた。

サライバ枢機卿 雲仙殉教地など巡る

11月22日夕、来崎の教皇代理サライバ枢機卿は、大司教館での歓迎レセプションに臨み、小神学生から聖歌で迎えられ花束が贈呈された。会場の茶席では茶道家のお点前で一服いただかれた。

翌23日は浦上教会でのミサ後、殉教地・雲仙地獄を巡り、殉教記念碑に献花、祈りをささげられた。

雲仙殉教地で

原爆落下中心地

26聖人記念館では殉教画の鑑賞。記念聖堂では前夜祭の祈りの集いに出席していた青年たちとの会話も交わされた。24日は朝早くホテルを出発、原爆落下中心地に向かい献花した後、列福式会場へ。25日朝、長崎空港から帰京された。教皇代理の巡礼には高見大司教らが同行した。

浦上四番崩れの拷問石 教皇代理、除幕・祝別

浦上信徒の流刑地となった山口県萩市から通称「拷問石」が浦上教会に贈られ、23日教皇代理が除幕式に出席、祝別した。

若者との交流：26聖人記念聖堂

前夜祭

KTN列福関連特別番組タイトル「絆」

遠い日の家族たち（54分）〈KTN〉12月12日（金）午後7時～〈BSフジ〉12月14日（日）午前6時～

列福式と殉教地の紹介―、列福された殉教者の激しい弾圧と拷問の壮絶な歴史を伝える。また迫害の中、信仰と人間として大切なものを守るため、家族が寄り添いながら強い絆で結ばれた生きざまや心を現代の人々に訴えていく。（11月号掲載の放送日程変更）

26聖人記念館

喜びに満ち溢れ、感動的な素晴らしい式でした。私たちが長い間祈り求め続けてきたこの日を、このように多くの方々とともに迎えることができ、大変感激です。この恵みを与えてくださった神さまと、ご準備頂いた皆さまに感謝。（大分・坂ノ市　荻本久美）

私は京都の大殉教に当初よりかかわる1人としてこの喜び・感激を列福運動半ばにして天国に召された、高巣島吉さんら先輩に報告申し上げます。そして殉教者の模範を私たちは力強く証しし次世代に引き継がねばならないと実感しました。（京都・山科　天田（てんだ）　茂）

つめたい雨がふってしんぱいしましたが、とてもすばらしいれっぷく式でした。ほうのうも参加できてうれしかったです。たくさんの人に、じゅんきょうしゃも祝ふくされて、神さまもえがおになったと思いました。今日のことはわすれません。（島原・小学生　畑田萌絵）

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが死ねば、多くの実を結ぶ」。信仰を貫き死を賭して証しし、イエスの福音を結実させた新福者に倣って、福音宣教の使命を果たしていきたい。（新潟　齋藤　清）

感動の中で、かつて巡礼した福者の各殉教地を思い巡らし、魂の永遠の救いを信じて喜んで殉教した188福者は、その価値観を列福を通して現代に示したと確信しました。同じ価値観を私も次世代に伝えたい。（福岡・高宮　青木喜代子）

殉教者が命をかけて証しした福音が、列福式で時空を超えて荘厳に顕彰されました。今を生きる私たちも殉教者の信仰・希望・愛の模範と祈りに支えられ、神の救いの業に協力する恵みに与（あずか）ることができますように！（城山　鹿山清人）

ペトロ岐部と187殉教者について学び、祈り、巡礼をして列福式に参加することができた。今後は、殉教者の精神を自分のものとして、神への信頼のうちに、キリストを証ししていく生活が求められていると思った。（熊本・健軍　久野 薫）

この列福式を通して、いのちはささげるためにあるとの力強いメッセージが教会と社会に与えられたように思います。困難の中に生きる多くの人に、この希望の知らせが届いてほしいと願いつつ祈りをささげました。（福岡サン・スルピス大神学院　神学生　中野健一郎）

殉教者を慕う人の多いのと、荘厳な儀式に感動しました。殉教者には子供の列福者もおり、現代の私たちは今日の学びからどのような歩みをと考えさせられた1日でした。父（未受洗）母と3人で参列できたのも喜びです。（横浜・大学生　花田香織）

ペトロ岐部と187殉教者の列福式に参加して、殉教者の偉大さ、素晴らしさをあらためて感じました。殉教者が命をかけて守り通した信仰を胸に抱き、その信念を目指し、恐れずに歩んでいきたいです。（長崎カトリック神学院　神学生　窄口聖吾）

殉教者が証しし伝えてくれた信仰を受け継ぎ伝えるために、召命を受けた私が彼らに倣い、弱さに負けず最後まで召命を全うして、証し人として成長できるよう、福者に助けを願いながら過ごしたい。（お告げのマリア修道会志願者　向井春菜）

命をかけて「いのち」に生きた、188殉教者の荘厳、盛大な列福式に参列できたお恵みを神に感謝し、殉教者たちの堅固な信仰に励まされて、残された余生を一歩一歩確実に歩んでいけるよう願っています。（大明寺　石橋勇治）

ディエゴ結城了悟神父帰天（日本26聖人記念館前館長）

11月17日午後8時37分、入院先の聖フランシスコ病院で、悪性リンパ腫のため帰天した。86歳。通夜は18日19時中町教会、葬儀は19日13時から同教会で髙見三明大司教主司式で行われ、約600人が参列、別れを惜しんだ。

在りし日の結城師

略歴　1948年来日。54年司祭叙階。63年26聖人記念館館長に就任、2004年退く。78年日本国籍を取得し、パチェコ・ディエゴから結城了悟へ改名した。

神父は、禁教令の中、信徒を育て穴吊りの刑に遭った徳島県出身・結城了雪神父（イエズス会員）の霊名がディオゴと呼ばれていたことから「結城」を選んだという。母国語スペイン語のほか英語、フランス語、ポルトガル語、イタリア語、ラテン語、日本語の7カ国語を操る。

82年、天正少年使節派遣事業の一環として長崎県が選んだ4人の正使らを教皇庁に案内、教皇ヨハネ・パウロ2世との謁見にも一役買う。前年の81年2月は、西坂の殉教地を訪ねられた教皇の案内役も務めた。

執筆活動―、単行本は日本語、スペイン語など多数。「長崎への道」「長崎の天主堂」「九州の古城とキリシタン」「新資料　天正少年使節」など。新聞への寄稿、テレビ出演など、キリシタン史研究の第一人者として知られていた。

11月の列福式で公開された殉教者の遺骨の一部―、神父は91年当時の白柳大司教の依頼でマカオに派遣され、現地調査の結果は1587年～1614年に殉教した日本人59人の遺骨と分かり、381年ぶりに遺骨の里帰りが実現した。188人の列福申請にあたっては、資料発掘に殉教地を巡り1冊の本にまとめている。神父の帰天は信徒だけでなく県民にも惜しまれている。

マリア・カルロ 松永リツ子修道女（長崎純心聖母会）

11月1日脳内出血のため、長崎大学付属病院で帰天、63歳、平戸市出身。

67年初誓願、77年終生誓願。学校、福祉施設で栄養士として奉仕。1980年ブラジルからの要請を受け海外宣教開始に当たり最初の派遣メンバー。25年間、託児所・日本語学校・診療所など、日系ブラジル人とのかかわりを持つ。体調を崩し帰国、高齢会員たちの介護に携わっていた。

葬儀ミサ・告別式は4日、本部修道院で行った。

マリア 中村スミ修道女（お告げのマリア修道会）

11月3日、五島市聖マリア病院で帰天。93歳。

創立期の久賀修道院に入会。農作業、保育所調理、司祭館奉仕、カテキスタとして生涯のほとんどを久賀で過ごした。久賀をこよなく愛し、明るく誠実な働きで周囲に喜ばれた。

晩年は病苦を、先祖の殉教者の奉献に合わせてささげ、後輩たちに生きた信仰を伝えた。

葬儀・告別式は5日福江教会で行われた。

寄付

●齊藤玲子様（札幌北11条）
●匿名様

右の方々からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎カトリック神学院

香典返し お礼とご報告

長崎カトリック神学院

●西田百合子様（飽の浦）故洗礼者ヨハネ西田金悟様
●江口克彦様（出津）故エリザベト山本ナミ様

神学生養成のために香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

本紙面の列福式関連写真提供：
DEITz（ディツ）株式会社
established in 1953, as イカサキフォトサービス
〒852-8117
長崎市平野町 14-7
TEL 095-845-7106
FAX 095-848-1040